

造園

●実技指導テーマ

技能検定2級・3級の課題を使った技能指導



ものづくりマスターの派遣要請の背景

ものづくりマスターの派遣を要請したのは、生徒の技能検定に対する合格率の向上と、高度技術の習得です。技能検定は、ものづくりマスター制度が始まる前から受けてきましたが、受検対策指導のレベルアップを図りたいという考えがありました。外部の先生に教えていただき、プロの技能を間近に見る機会を持つことは、生徒の学習意欲の向上につながります。「現場の風」に触れることで、造園業に求められる人材について、生徒が理解しやすくなるのではないかとということで、派遣要請をさせていただきました。

●派遣先



埼玉県立熊谷農業高等学校
〒360-0812 埼玉県熊谷市大原3丁目3-1

派遣先概要

学 校 長：竹本政弘
創 立・沿 革：明治35年 埼玉県立甲種熊谷農学校開設
明治36年 埼玉県立熊谷農学校と校名改称
昭和23年 学制改革により埼玉県立熊谷農業高等学校となる
学 科：生物生産技術科、生物生産工学科、食品科学科、生活技術科（いずれも全日制）
卒業生総数：2万2,000名以上
教 員 数：77名

指導期間/回数	平成25年7月23日から11月15日 3級コース4回、2級コース10回
指導実施場所	埼玉県立熊谷農業高等学校内の 実習場「櫻の杜」
受講者数・指導職種	延べ170名、 生物生産技術科ガーデニングコース3年生 (うち女子生徒3名)、造園

●カリキュラム

日数	日時	指導内容
1	7月23日(火)	造園技能検定3級程度の課題:竹垣の施工
2	7月29日(月)	造園技能検定3級程度の課題:石工・植栽
3	7月30日(火)	造園技能検定3級程度の課題:全体作業
4	8月7日(水)	造園技能検定3級程度の課題:全体作業
5	10月3日(木)	造園技能検定2級程度の課題:四つ目垣の製作
6	10月4日(金)	造園技能検定2級程度の課題:四つ目垣の製作
7	10月7日(月)	造園技能検定2級程度の課題:四つ目垣の製作
8	10月8日(火)	造園技能検定2級程度の課題:四つ目垣の製作
9	10月10日(木)	造園技能検定2級程度の課題:石工作業1
10	10月28日(月)	造園技能検定2級程度の課題:石工作業2
11	10月29日(火)	造園技能検定2級程度の課題:石工作業3
12	11月11日(月)	造園技能検定2級程度の課題:植栽
13	11月12日(火)	造園技能検定2級程度の課題:仕上げ・復習
14	11月15日(金)	造園技能検定2級程度の課題:復習



👑ものづくりマスター

渡邊 章(わたなべ あきら)

昭和34年2月13日生まれ。昭和62年1級造園施工管理技士取得。平成10年度 1級技能士(職種「造園」・造園工事作業)取得。平成21年造園基幹技能者講習修了。平成25年7月10日、「造園」職種でものづくりマスターに認定。



●指導ニーズの把握方法

事前の打合わせのとき、先生から、短期間ではあるが、技能検定の2級と3級の両方の課題をやってほしいと依頼されました。しかし、時間的な制約から主に2級検定の課題に絞って進めました。実際の指導では、私が実演してポイントを押さえたうえで、生徒さんにも作業をしてもらいました。今日は竹垣の施工、明日は飛び石の据付けのポイントを教える、さらに、植栽について樹木の表裏を説明するというように、段取りを細かく決めて進めることにしました。

目標に向けて自分で考え、 行動する力を身につける

工夫したことは？

私は「空気」とよく言うのですが、常に作業環境を明るく楽しくできればと考えながら指導しています。最初は少し抑え気味にして、最後にほめてあげると、皆さんの笑顔がこぼれてきます。ほめられると自信につながり、自然に次の作業もステップアップします。そういうことを考えながら指導すれば、将来にもつながるのではないかと考えています。

苦労したことは？

育った環境が皆さん違って、1人ひとり個人差があります。その個人差に対して、どうしたら同じように引き上げていけるのかが、一番苦労したところではないかと思っています。

特に印象に残ったことは？

生徒さんを教えていると、皆さんの目つきが段々と変わってきます。最初は授業の一環でやっているようなところもありましたが、最後のほうになってものができ上がってくると、目が真剣になってきます。ほとんどの生徒さんの目が輝いてきて、ものづくりに対して興味を持ち、達成感を味わってもらえたのではないかと思います。

👑今後 反映させたい ことは？

ものづくりの道に進む若者がどんどん減っているのので、この制度をきっかけにして、ものづくりの職に就いていただくとありがたいです。そのためにも、自分で体験してすばらしさを感じてもらいたいです。私自身がいつも仕事にやりがい、喜び、達成感を感じていますので、造園業の魅力を若い人たちにアピールしていければ良いと思っています。この制度がきっかけになって、造園業界だけでなく、技術屋さんの世界が元気になっていけば良いと思っています。

受入れ担当者の感想

●ものづくりマイスター制度を知ったきっかけ

埼玉県職業能力開発協会のホームページを見たことがきっかけで、担当の方に来校いただき、ものづくりマイスター制度について教えていただいたのがスタートです。その中で、技能検定を受けている分野の教員が集まり、「いい制度だから是非やってみよう」ということで取り組みました。



甲村 龍之進さん

●ものづくりマイスター派遣導入に当たり、内部調整で苦労したことは？

造園に関しては、まず雨天時の対応に困りました。室内での訓練指導であれば、雨でも晴れでも授業の内容は変わらない。造園の場合、雨天といっても、微妙な時があります。そういった状況のとき、ものづくりマイスターの方にご迷惑をおかけしてしまったり、急遽内容の変更などがありました。また、授業にどう組み込むかという点です。授業といってもカリキュラムがありますので、教える授業の内容を大幅に変えてはいけないという事情もあります。そういったことを踏まえ、授業の中にどのようにもものづくりマイスター制度を組み込むかということについて、学科内の教員で協議を重ね、カリキュラムに組み込んだ形で行うことにしました。

●ものづくりマイスター制度活用が一番のメリットは？

生徒の学習意欲の向上、これがまさに一番のメリットです。スペシャリストにプロの技を見せてもらい、その考え方を教えていただくというのは貴重な体験です。次に、ものづくりマイスターの高度な技術の教え方は、我々教員にとってもよい勉強になるということです。渡邊さんは「技能五輪全国大会」の造園職種への出場候補選手の指導をしています。生徒が「やる」ということになればの話ですが、造園に関しては、高校生でももしかしたら挑戦できるのではないかと考えています。今後の可能性について、ビジョンを見ることができたという気がしています。生徒がやる気にさえなれば、私たちがそういう夢も見ることができるという気がしてきました。

受講者の感想

●受講の動機

ものづくりマイスターの派遣講習は、学校のほうで組まれたカリキュラムに含まれていました。自分でもプロの技に触れられるといった期待感もあり、積極的な気持ちになりました。



●スゴイと思ったことは？

「実習ノート」という小さいノートがあって、それに毎回の授業のポイントをまとめて記録しています。そこに、「マイスターがデモンストレーションで造った庭が、理屈抜きにすばらしかった」と書きました。また、渡邊さんがデモンストレーションのときに自信をもって作業されている姿は、ある意味で、自分のあこがれにも通じるものがありました。短時間で手際よく仕上げるものづくりマイスターの姿を見て、「自分もああいうふうになりたい」と思いました。

●特に参考になったことは？

「自分で考え、あきらめずに最後までやる」といったことを身体で学べた気がします。難しさを知ったうえで妥協しないということが、仕事をしていくうえでの基本なのかもしれません。でも、難しかったところができたときに、優しくほめてもらえて、本当にうれしかったです。



👑「ものづくりマイスター制度」活用のアドバイス

受入れ担当者より

ものづくりマイスター制度は、教育現場から見ても非常に素晴らしい制度だと実感しています。最近、教育分野でも学校内だけの力ではなく、地域の力を活用することに着目するようになってきましたが、私自身も再度勉強させてもらったという気がしています。去年、今年と実施して、生徒が前向きに取り組んでいる姿を見ますと、今後も是非続けてほしいと思います。

受講者より

今年も昨年と同じようにものづくりマイスターによる授業が始まりました。学校の先生による授業とは異なり、実際にものづくりマイスターの方に来てもらって指導していただくと、「チェックが厳しいな」といった面もあると同時に、非常に刺激になる授業を受けているという実感が増してきます。

ものづくりマイスターより

ものづくりマイスターとして、いろんなところで今回のように使っていただけると、私自身も勉強になるので、もっと教える機会を増やしてもよいかと思っています。この制度を活用することで、ものづくりの技能者、後継者を増やしていければと思っています。造園の世界の魅力、そこで働くやりがいと誇りについても、若い人たちに教えていきたいと思っています。

コーナー担当者より

埼玉県の高等学校では、ものづくりマイスター制度がかなり浸透しています。昨年の活動実績を見ますと、受講者数は延べ3,000人日と他県と比べても断トツです。今年は延べ5,000人日になる見通しです。一生懸命に頑張っている先生方をどうサポートしていくのか、これが我々の最大の課題だと思います。ものづくりマイスターには、さらに磨きをかけてもらって指導していただければと思っています。